令和７年３月１日

越谷保育専門学校
校長　美入　昌男

令和６年度　学校関係者評価委員会報告書の公表について

学校関係者評価委員会による、本校の「令和６年度第２回学校関係者評価委員会報告書」を公表します。

なお、本校の学校関係者評価で使用した自己評価報告書の様式は、特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構が作成した文部科学省ガイドライン準拠版Ver4.0を使用しました。

令和７年３月１日

越谷保育専門学校
校長　美入昌男様

越 谷 保 育 専 門 学 校
学校関係者評価委員会
委員長　曽野　麻紀

令和６年度　第２回学校関係者評価員会報告

令和６年度第２回学校関係者評価委員会において実施した「令和５年度自己評価報告書」に対する評価結果について、下記のとおり報告します。

記

１　学校関係者評価委員会委員名簿

委員長：曽野麻紀委員

⑴外部委員

池田　祥子	社会福祉法人杉の子保育会　評議員
植竹　清文	学校法人植竹学園　理事長
須田　俊弥	埼玉県立越谷東高等学校　校長
曽野　麻紀	十文字学園女子大学　人間生活学部幼児教育学科　准教授
豊田　正一	元埼玉県吉川市立中央中学校長 吉川市教育委員会スクールソーシャルワーカー
野口　和幸	株式会社クラブキッズ ＮＰＯ法人地域こども包括支援センター
宮崎　大輔	株式会社みらいコンチェルト　代表取締役

（五十音順）

⑵学校側事務局

美入　昌男	学校法人ワタナベ学園理事長兼越谷保育専門学校長	
渋谷るり子	越谷保育専門学校教務部学科長	
古塩　秀明	同	事務長
会田　秀樹	同	参与
東海林　孝	同	参与
佐々木　優美	同	専任教員

2　委員会開催状況

（1）日　　時　令和 6 年 12 月 3 日（月）午前 9 時 15 分～午前 11 時 30 分

（2）会　　場　越谷保育専門学校　201 教室

（3）参加委員 上記委員　出席 7 名　　学校側事務局　6 名

3　委員会次第

開会

（１）校長挨拶

（２）授業見学

（３）議長選出

（４）協議

ア　授業・行事での取り組みについて

イ　令和 7 年度入学の学生募集の状況について

ウ　中途退学防止の取り組みについて

エ　令和 6 年度卒業予定者の進路状況の中間報告

オ　その他

（５）授業見学

（６）その他

ア　今後の予定

イ　事務連絡等

閉会

4　学校関係者評価結果

別紙のとおり

別紙

令和６年度越谷保育専門学校　第２回学校関係者評価報告書

令和７年３月１日

1　校長挨拶

(1) 学校教育法の一部改正に関する法律交付について

令和８年４月１日から施行される。大きな変更点は、①大学とほぼ同じ高等教育機関という位置づけになる、②法律上現在は「生徒」という呼称を使用しているが、「学生」という呼称になる、③自己評価が義務付けられ、外部による評価を受ける努力義務があるなどの点である。

(2) 寄付行為について

資料の通り、本学園の私立学校への寄付行為の変更があり、10 月 31 日に埼玉県の学事課へ提出した。理事会と評議会の兼任をしないことになっている。現在のところ理事を 8、評議員を 12～13 名と決めている。その他選考委員会など詳細についても記載されている。来年度 4 月 1 日から施行される予定になっている。

⑶ 2024 年度の基本事業計画について

吉川こども大学、保護者会、保育実習、保育祭などの取り組みについて紹介。今後は 1 月 28 日から 31 日に定期試験、2 月に保育実習、3 月に施設実習が行われる予定。卒業式は 3 月 12 日午後 1 時よりを予定している。

⑷ 学生の在籍数について

今年度の在籍数は 68 名である。今年度の出生率が 72 万人となっており、少子化の影響を感じている。学生募集の状況は、現在のところ 42 名となっている。社会に評価される学校は、学生が集まり、辞めない、就職ができる学校だと考えている。社会に評価される学校を目指したい。

⑸ 施設の老朽化について

この校舎は昭和 48 年に建ち、51 年が経過している。何かと壊れる部分が多く、最近では火災報知機の異常や、高架水槽の劣化によって水漏れが起こってしまい、老朽化を感じている。どうするかに関しては現在検討中である。また、wi-fi を整備して業務の効率化を進めていけるようにと考えている。学生にとっては SNS の正しい使い方も今後の課題になっている。

2　授業見学　（授業時間の関係上、協議を先に実施した）

科目	教室	授業担当者
発達心理学	2 階 203 教室 1 A	殿塚貴史
子どもの言語文化表現	2 階 204 教室 1 B	横関由紀
子育て支援	3 階 301 教室 2 A	石川信雅
社会的養護Ⅱ	3 階 302 教室 2 B	木村康平

3　議長選出

美入校長より曽野委員に議長をお願いすることとなった。

4 協議事項

（1）授業・行事での取り組みについて

主に基準 2-7、基準 3-11-2、基準 6-22.23、基準 10-36 に関連する部分について、学校側から説明があった。

ア　実習の評価について≪3-11-2≫≪ 6 -23≫

（学校）報告書の中の課題として、実習での低い評価をもらってくる学生が最近目立ち始めた。5 段階評価のなかで不認定にはならないまでも、1 や 2 の評価がちらほら見受けられる。今までの経験上 1 がつくということはほとんどなかったが、複数項目に 1 や 2 が付く学生が目立ってきたという印象がある。再実習となる学生も増えており、支援のあり方の多様化などを令和 5 年度の報告書の中で課題として挙げていた。その改善方策の 1 つとして、附属幼稚園での連携をお願いし、現場での体験を通して学びなおしができるような取り組みを実施し始めたところである。

イ　Wi-Fi 環境について≪2-7≫≪6-22≫

（学校）授業実施教室には Wi-Fi 環境がなかった。今年度は授業担当者のみがしようできるポケット Wi-Fi をレンタルし、授業で動画などの活用ができるように試用している。環境を整えるというハード面だけではなく、いわゆる教員の授業方法を含めたソフト面の変化も求められると考えている。非常勤の先生には Teams への移行をお願いしているが、まだ難しい部分もある。授業での活用方法について協議が必要だと感じている。

ウ　多機能型事業所みんと交流・販売会について≪3≫≪10-36≫

（学校）学生の障害者理解を深めるために施設実習の協力施設でもある川口市の「みんと」の利用者と交流を行った。昼休みに利用者と学生でバームクー

ヘンの販売を行い、90 分の授業のなかでは約 60 分の時間で交流できるプログラムを学生が考案して実施した。積極的な学生は自分で声を掛け、手をつないで一緒に活動をするなどの姿が見られた。現状として、施設実習の際の実習希望調査において、障害者施設への希望を出す学生が少ないという状況が見られる。このような交流会を通して、見えない部分での不安から施設へのハードルが下がったのではないかという印象をもった。

委員からの意見や問題定義

（委員）実習で低評価を出すというのは園側としても難しいと考えているが、評価の内容について教えてほしい。

（学校）それぞれの学生によって違うが、全体評価で 1 を付けてくること自体が実習園としても勇気がいることだと伺っている。実習中に園へ訪問した際に、事前に話ができてからの評価なので、学校としては納得できるものである。今年の例でいうと、挨拶ができていなかったり声が小さかったりと資質の部分で評価が低くなっている学生がおり、そういった学生が目立ってきたと感じている。普段の学校生活のなかで、遅刻をしない、提出物の期限を守るなど、学校のなかでも地道に指導を重ねていく必要がある。

（委員）色々と対策をすることも必要ではあるが、優先度を考えて社会に送り出すことが大切。外部に出て評価をもらうので、就職をしてから早期退職をしてしまうと学校の評価にも繋がる。

（学校）本校には実習体験というものがあり、その際に提出物が遅延しそうな学生は、現場でも遅くなる。実習記録が書けず、提出できなかった学生に関しては補習を行っている。実習に送り出す前の対策として個別指導を行っている。現場の先生方へ負担をかけて申し訳ないと感じるが、それでも乗り越えられなかったら仕方ないということで結果を受け入れている。

（委員）実習に出るにあたって、それまでの必要な単位数であるとか条件はあるんですけど、大学の授業を受けて単位を取ることと、実習にいってやり遂げてくるというのが全然違う。学生の質も変わってきており、どちらかというと甘くならざるを得ない。現場の先生からの様々なご指摘やアドバイスが学生に響かないというところで、諸々改善しない点は現場の先生にはご負担をお掛けしている。しかし、学生自身が実習を希望している限りは、学ぶ権利を保障しないということはできない。

⑵令和 7 年度入学の学生募集の状況について

（学校）今年度の入学者数は 53 名であった。今年度 11 月 22 日現在ではスカラシップ総合選抜のエントリー数は 19 名、昨年が 22 名のエントリーでしたが、8 期のエントリーが 2 名入っていますので、厳密に申し上げると 21 名となる。指定校選抜に関しては、今までの 3 回の選抜が終わっているが、出願者は 30 名となる。まとめると、出願者が 49 名、合格者が 42 名となっている。これに、12 月からは委託訓練生の募集が始まり、何名来るかによって定員の 8 割という数字が見えてくる。

（委員）高校では、頂いた指定校推薦の情報は生徒に全て公開し、条件を見ながら成績を照らし合わせ、目的を考慮しながら決めていく。条件が合えばあとは本人の気持ち次第。

（委員）中学の時に不登校だった生徒でも、高校へ行って頑張れば指定校推薦で保育士になりたい夢が叶うよと道筋を立てて話している。これは非常に影響が大きくて、生徒の励みになっている部分もある。

（学校）指定校推薦で入った学生は比較的安定して授業を受けていると感じる。目的を持って入学し、勉強に取り組んでいると感じている。

（３）中途退学防止の取り組みについて

（学校）毎年 5%前後を推移しており、今年は現在 4 名の退学者がいる。1 名は入学してすぐに退学をした。そのあとに卒業した高校を訪問して高校生活の様子を伺った。高校時代はもともと保育者を目指していたが、入学前の課題の「保育者を目指す心構え」の作文で自信を失ったという話があった。休学をしてやり直す学生もいるが、そのような場合はハードルが高くなる。コロナ禍以降、学生の質が変わってきたと感じており、特にコミュニケーションが苦手な学生が多くなったように感じる。家族が小規模化した影響もあるのではないかと考えている。気になる学生の保護者は連絡が取れないことも多く、苦労する部分がある。今後も休学防止に向けて取り組んでいきたい。

（委員）実習に行ったときに、最初はあまり面白くなかったなと思っていても、子どもと関わっているうちに楽しさを感じるようになるのではないかと思っている。

（学校）実習へ行って事後面談などをすると、実習や子どもとの関わりが楽しかったという言葉が学生から出てくる。評価が悪くても楽しかったと話す。では何が課題かというと、今の学生は自己評価が高いため、できなかった部分

を指摘しても嫌がることはないが、どう改善していったらよいのかわかっていないというのが現状である。子どもと関わるだけじゃない部分の大変さを実習で身をもって感じてきている。ただし、子どもが好きであれば、子どものために頑張れるという学生がほとんどである。

（委員）通信制のある学校は、辞めてしまいそうな生徒を通信制で救い上げるなど、色々な方法があると聞いている。総務省も力を入れており、ここ数年は特に増えている。学生の受け皿を作ることで学校の評価にも反映されるのではと考える。

（委員）どの学校においても、実際に入学して現実をみてこれはちょっと違うなと感じて方向転換する人は 1 割ぐらい出てくる。どんなに頑張ってもこの部分は仕方ないものがある。子どもがこれだけ減ってきているなかで、かなり頑張っているのではないかと感じた。

（委員）仕事についても入ってから合わないなと感じて辞める人もいる。数パーセントの退学者についてはそれほど気にしすぎなくても良いのではないかと思います。それよりは、たくさんの人に受験してもらうという方向に力を注いだ方が良いのではないかと思う。

（４）令和 6 年度卒業予定者の進路状況の中間報告

（学校）昨年度と日付を合わせて 11 月 2 日現在の求人数と内定者数を記載した。大きく変わる部分は求人数が多少減っている点があるが、減っているからといっても大きな問題になる数字ではない。昨年、一昨年は特に求人数が多かったため、減ったからといっても多い方である。内定者については昨年よりも同日付でいくと多い状況である。

（５）その他

授業見学後の感想と意見

（委員）かなり集中して授業に参加していると感じた。教員の表情などが学生の意欲に繋がっていると思う。

（委員）教員の目線が気になった。全体を見ていない先生もいるように感じた。学生自身が授業に参加していると感じられるような雰囲気作りも大切だと思う。全体的には授業に集中して意欲的に参加できている学生が多かった。

5　閉会　ご協議誠にありがとうございました。協議でのご意見、ご提案、ご提言を今後の学校運営に生かします。